

せんだい 都市交通 プラン



令和3年3月
仙台市

目次

1. はじめに.....	1
1-1. せんだい都市交通プランの推進について.....	1
1-2. 本プランの位置づけについて.....	2
2. 本市における現状と課題.....	8
2-1. 本市の現状について.....	8
2-2. 現状と課題の整理.....	28
3. 交通の将来目標.....	29
3-1. 交通の将来目標.....	29
3-2. 交通政策の基本方針.....	33
3-3. 将来の交通体系.....	36
4. 将来目標の実現に向けた施策.....	38
4-1. 実施施策.....	38
4-2. 実施プログラム.....	82
4-3. モニタリング指標の設定.....	84
5. 計画の推進について.....	85
5-1. 推進体制.....	85
5-2. 計画の進行管理.....	85
(参考資料).....	86
せんだい都市交通プラン(H22.11策定)の振り返り.....	86
用語解説.....	90
検討体制・検討経緯.....	93

1. はじめに

1-1. せんだい都市交通プランの推進について

本市では、平成 22 年に「せんだい都市交通プラン(以下、プラン)」を策定し、100 万都市のにぎわいと暮らしやすさの確保を目指して、「鉄道にバスが結節する、公共交通を中心とした、過度にクルマに依存しない交通体系」を構築するため、地下鉄東西線の開業により機能集約型都市構造の基軸となる十文字型の骨格交通軸を形成するとともに、仙台駅周辺地区の交通結節機能強化や東西自由通路の拡幅整備、青葉通再整備事業などによる都心の交通環境改善などに取り組んできました。

一方で、プランの計画期間である 10 年が経過し、本市を取り巻く社会情勢の変化や、東西線開業後の交通行動の変化、少子高齢化の進展等に伴う市民ニーズの変化などへの柔軟な対応が求められてきていることから、これからの本市における交通政策の指針として、新たなプランを令和3年(2021 年)3 月に策定しました。

新たなプランでは、現状の課題を整理し、課題への対応を踏まえた交通政策の目標や基本方針を定め、各方針に基づいた実施施策を示すとともに、計画期間の中間年度である令和 7 年度(2025 年度)に施策・取り組みの一部を見直し、プランの推進を図ります。また、実施施策の推進体制の構築や実施プログラムの設定、適切なモニタリングによる計画・施策の改善を行い、将来目標の達成を目指します。

1-2. 本プランの位置づけについて

1-2-1. 本プランの位置づけ

本プランは、上位計画である「仙台市総合計画」や、令和7年(2025年)3月に策定した「仙台市ダイバーシティ推進指針」の考え方を踏まえ、本市における交通政策の指針として定めるものです。

また、より効果的・効率的に事業を展開していくため、関連計画である「仙台市都市計画マスタープラン」やその他交通に関する計画と連携を図っていきます。

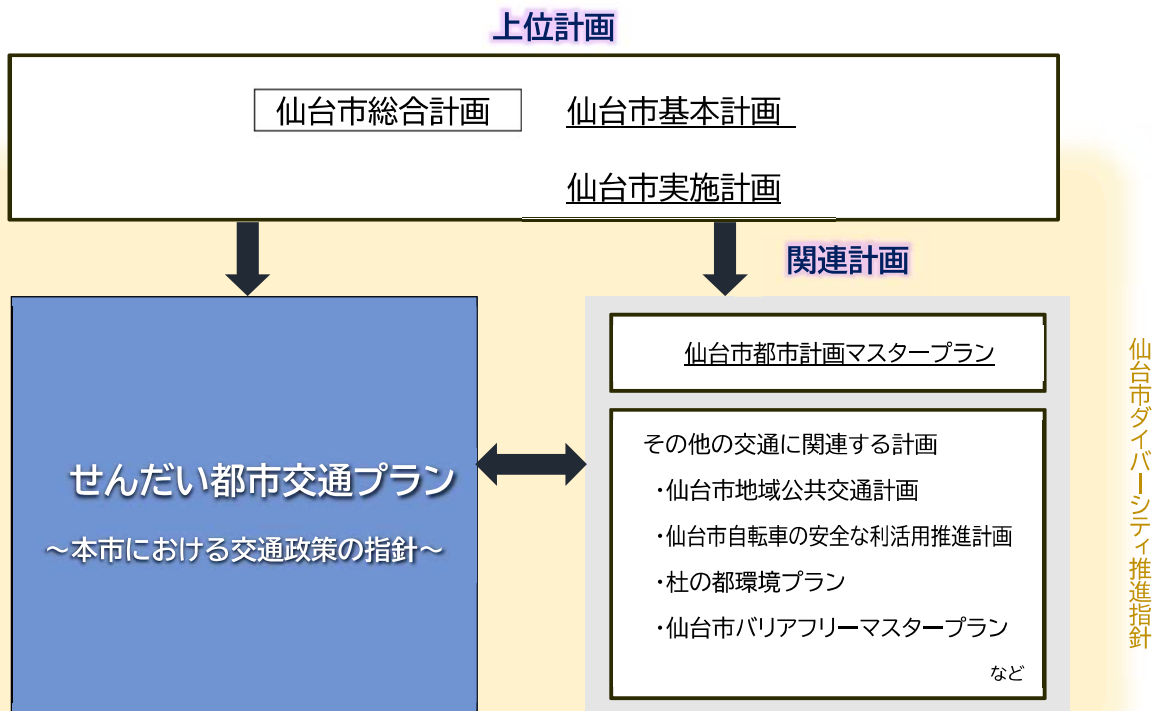


図 1 本プランの上位計画と関連計画

1-2-2. 計画期間

本プランの計画期間は、仙台市基本計画や仙台市都市計画マスタープランの計画期間と合わせ、令和3年度(2021年度)から令和12年度(2030年度)とします。

1-2-3. まちづくり関連計画等

(1) 仙台市総合計画(上位計画)

仙台市総合計画は、住民や地縁団体をはじめ仙台に関わる方々が、ともに進む方向を共有することを目的に策定しており、仙台の目指す都市の姿とその実現に向けた施策の方向性を示したまちづくりの指針となる「基本計画」と、目標の着実な実現に向け具体的な施策を取りまとめる「実施計画」で構成されています。

■計画期間

「基本計画」の計画期間は10年間とし、初年度を令和3年度(2021年度)、目標年次を令和12年度(2030年度)としています。行政運営の長期的な指針となるものであるため、目指す都市の姿については、21世紀半ば(2050年頃)を見据えるものとしています。

具体的な目標と施策を定める「実施計画」は、「基本計画」の期間を3つに分割し、概ね3年間としています。

■まちづくりの理念

挑戦を続ける、新たな杜の都へ

～ “The Greenest City” SENDAI ～

まちづくりの理念として、「挑戦を続ける、新たな杜の都へ～“The Greenest City”SENDAI～」を掲げ、「杜の都」と親和性のある Green という言葉に、目指す都市像に関連する多様な意味を持たせるとともに、世界を見据えて常に高みを目指していくという方向性を示しています。

■目指す都市の姿

本市がこれまで培ってきた強みである「環境」、「共生」、「学び」、「活力」の4つの都市個性を見つめ直し、「杜の恵みと共に暮らすまちへ」、「多様性が社会を動かす共生のまちへ」、「学びと実践の機会があふれるまちへ」、「創造性と可能性が開くまちへ」の4つの目指す都市の姿を示しています。

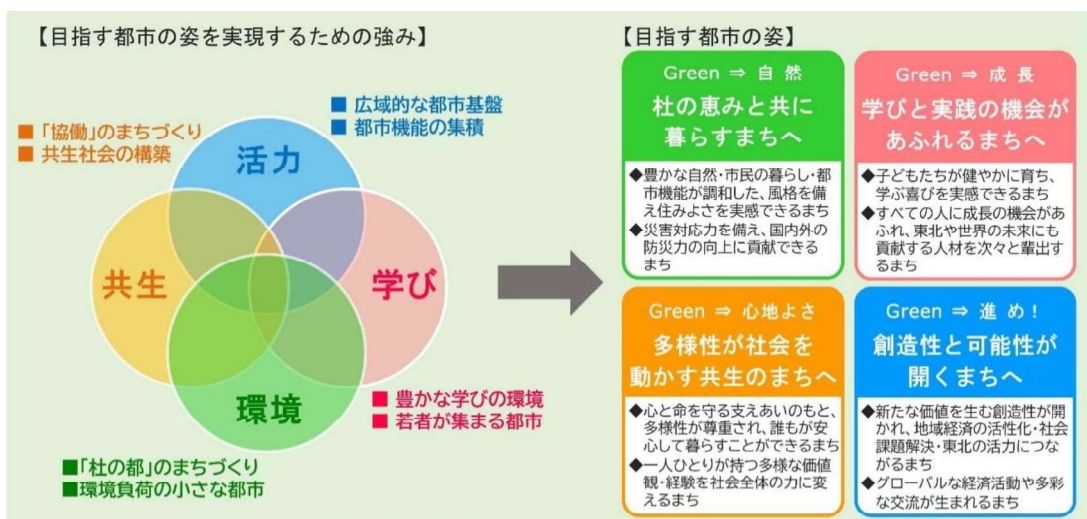


図 2 目指す都市の姿の概念図(仙台市基本計画)

(2) 仙台市都市計画マスタープラン

仙台市都市計画マスタープランは、仙台市基本計画を踏まえ、都市づくりの目標像や基本方針を明らかにし、本市の都市づくりに関わる人々が都市づくりの目標像などを共有し連携を図りながら、都市づくりを総合的に展開していくことを目的としています。

■計画期間

仙台市基本計画に掲げた 21 世紀半ば(2050 年頃)を見据えた都市像の実現を目指し、仙台市基本計画の計画期間と合わせ、令和 3 年度(2021 年度)から令和 12 年度(2030 年度)までとしています。

■都市づくりの目標像



市民をはじめ国内外の人に、多様な活動の場所として選ばれる持続可能な都市であり続けるために、緑に包まれた美しくゆとりある環境と高次な都市機能が集積した利便性、防災環境都市としてのブランド力など、これまで培われてきた都市個性を生かし、さらに高めるとともに、挑戦を重ね、新たな魅力や活力を生み出す力強さと、様々な変化に対応するしなやかさによって、その価値を高め続ける都市、“新たな杜の都”を目指すこととしています。

■土地利用の基本的な考え方

自然と都市機能が調和した持続可能な都市構造の形成に向け、本市の特性を踏まえた土地利用を図りながら、鉄道駅を中心に都市機能の集約を進めることとしています。

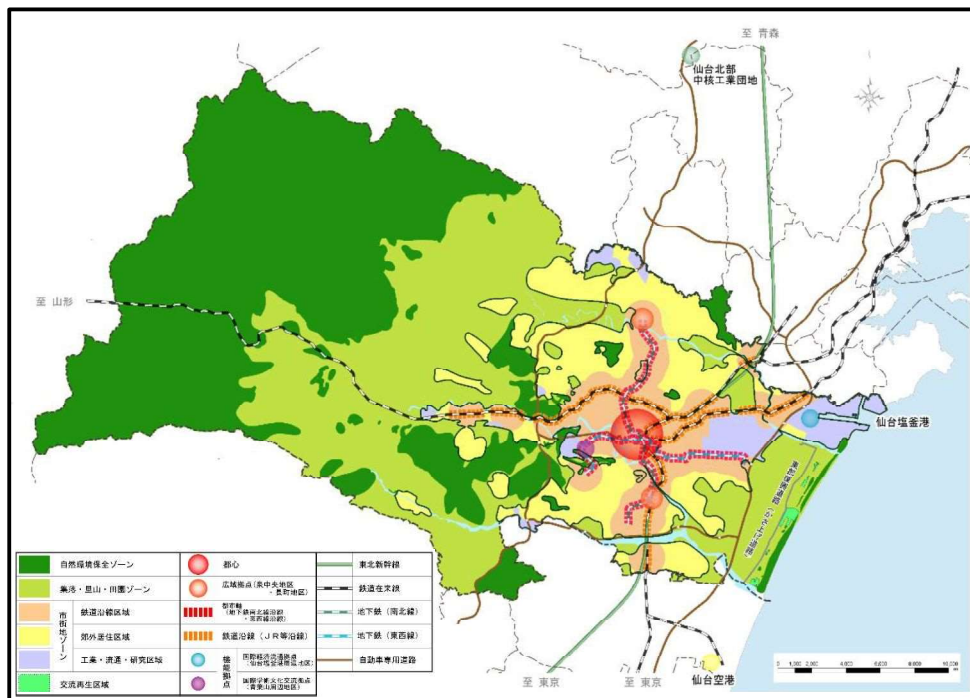


図 3 土地利用による地域区分(仙台市都市計画マスタープラン)

(3) 仙台市ダイバーシティ推進指針

仙台市ダイバーシティ推進指針(令和7年3月策定)では、「誰もが安心して住み続け、活躍できるまち」を実現していくため、本市のさまざまな施策を検討・実施する際に考慮すべきダイバーシティの視点として下図の4つを掲げ、共通する事項としてデジタルをはじめとしたさまざまな技術の活用を位置付けています。これらの考え方を本市の実施計画や各部局が策定する分野毎の個別計画等に織り込み、まちづくりの視点や施策の方向性をダイバーシティの観点から拡張していくこととしています。

指針には、年齢、国籍、障害の有無などのさまざまな「ちがい」により不利益を受けたり排除されたりすることのないよう、ちがいに対する理解を進めながら、多様な価値観やニーズを踏まえた柔軟で配慮あるサービスなどを整えることなどが盛り込まれています。本計画においてもダイバーシティ推進指針に留意しながら、多様性への配慮を進めていきます。

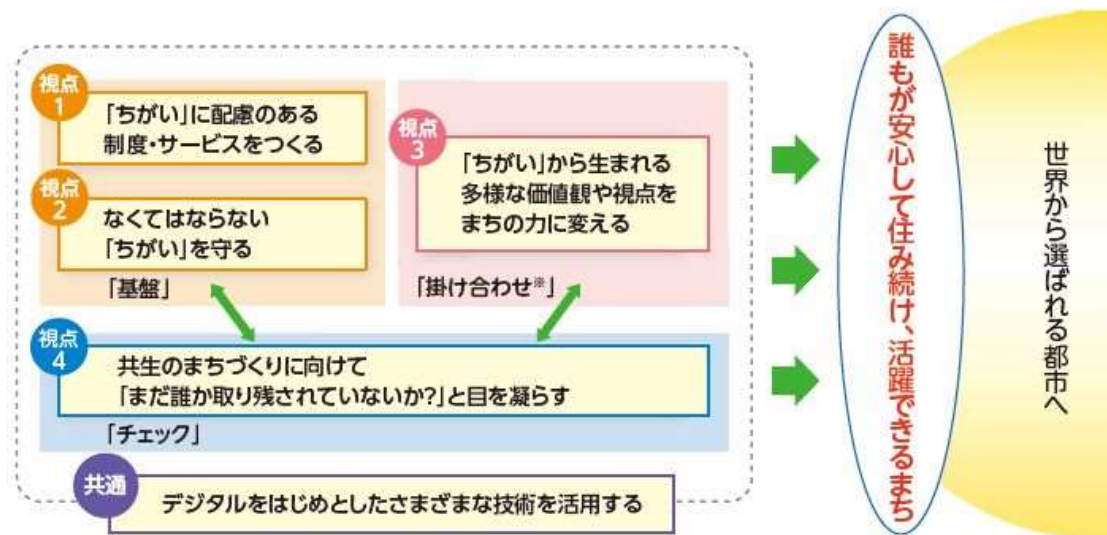


図 4 ダイバーシティ推進指針の取り組み

1-2-4. 社会的な動向

持続可能な開発目標(SDGs)

SDGs とは、「Sustainable Development Goals(持続可能な開発目標)」の略称であり、平成 27 年(2015 年)9 月の国連サミットで採択された「持続可能な開発のための 2030 アジェンダ」にて記載された 2016 年から 2030 年までの国際目標です。

SDGs では、誰一人取り残さない持続可能で多様性と包摂性のある社会の実現のため、貧困や飢餓、格差や持続可能な消費・生産などの 17 のゴール(目標)とそれを達成するための 169 のターゲット(達成基準)が掲げられています。

本プランでは、SDGs の 17 の目標のうち、5 つの目標(3、9、10、11、13)が特に関連することから、同じ目的意識を持って計画を推進することにより、SDGs の達成に貢献していきます。



図 5 SDGs の 17 のゴール(目標)

出典:持続可能な開発のための 2030 アジェンダと日本の取組(外務省)

コラム「コロナ禍の取り組み」

令和2年(2020年)に感染が拡大した新型コロナウイルス感染症は、働き方や買い物、娯楽など、人々の生活に大きな変化をもたらし、交通面に対しても、バスや鉄道利用の大幅な落ち込み、自転車の利用増加などの影響を及ぼしました。

コロナ禍においては地下鉄・バス利用者に対する咳エチケットの呼びかけや車内換気など感染拡大防止に取り組みました。

公共交通における取り組み事例



出典:仙台市交通局 HP